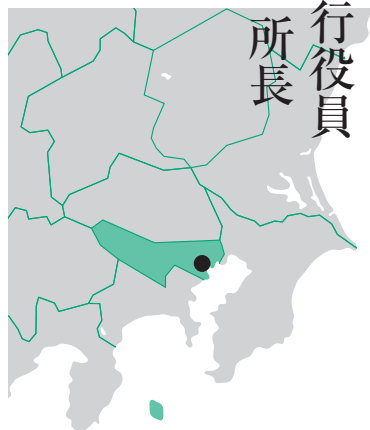


石橋 孝宜さん

人手不足でスキマバイトが急成長
農業進出で地域貢献と事業拡大へ

東京都港区

株式会社タイミー 執行役員
スポットワーク研究所 所長



一つの仕事を時間を細切れにしてアルバイトを募る「スポットワーク」

が成長している。農業の分野でも収穫調製作業への利用など、各地で存在感を増す。業界最大手のタイミー執行役員の石橋孝宜さんは、人手不足のなかでも潜在的な労働力を掘り起こしたことが成功の秘訣だと考える。特に農業分野への進出は、ビジネス拡大と地域課題の解決に欠かせないという。

全国のあらゆる業種に拡大

—— 増収増益を続けています。

石橋 成長の背景は、日本全国の地域も産業も深刻な人手不足であるという現実です。当社の場合、アルバイトとして就労を希望する人が多く、企業から多くの求人が寄せられ

ても全国平均で9割近いマッチングに結び付けてきました。タイミーに登録している働き手は累計900万人（2024年9月時点）を超えました。確かな実績が追い風になっています。

地方に行けば行くほど、中小企業は働く人が足りないといわれます。ところが、地元の人にとっては「仕事が見つからない」というジレンマがあります。

企業の側は「正社員が欲しい」「何でもできる人材が欲しい」「みたいなのがあるのですが、なかなか見つかりません。しかし、「3時間だけだったら働ける」人はいて、必要な仕事を細切れにするとマッチングが可能です。

眠っている労働力を呼び起こした

ところが、私たちのビジネスを広げる機会になったと思っています。

—— タイミーの課題は何ですか。

石橋 私たちが全国のありとあらゆる業種で働けるためのインフラになることです。そうした意味で、農業は非常に大切な業種と位置付けています。

成長のためには、一つは業務エリアをどんどん拡大すること。地方に支社を出して営業対象を広げたり、地方自治体と連携をしたりしていくことも進めています。

もう一つは、対象とする業種や業務を増やすこと。スポットワークを使ったことのない業界はまだいっぱいあります。その業界に入っていく、「この業務だったらこの部分を切り出せますね」と提案しながら、どん

どん浸透させていきたい。そのなかで当社のサービスも、より使いやすく進化していきます。

働く側の人たちに対しては、人生を豊かにするための選択肢を提供していきたい。短時間働けるだけでなく、多様な業種、業界で働けるといふ「お楽しみ」みたいな側面もあります。

お試して働いてみたらその仕事に興味がわいて正規で働きたくなることもあるでしょう。その場合、スポットワークから正社員になることを後押しする工夫も準備しています。

農業界での知名度は低かった

—— 農業部門の業績はどうですか。

石橋 2023年11月、社内には農業チームを立ち上げました。農業部門



株式会社タイミー執行役員の石橋孝宜さん＝東京都港区の本社で（写真はタイミー提供）

は、24年7月の時点で募集人員数が前年に比べて約3倍、タイミーを導入した事業所数が約4・1倍に増えました。当社全体のなかでも農業の伸び率は非常に大きく、受け入れ側の農家の評価も高い。農業と私たちの相性が非常によいことは、この数字を見ればわかります。

農業部門をスタートする際、メディアなどを通じてタイミーのマッチングビジネスの宣伝をしました。日本農業法人協会やJAなども訪問して、仕組みの説明や営業をさせても

りました。

ですが実際に活動を始めたところ、口コミによるインパクトがそれを上回っている印象です。農家から農家に情報が伝わり、それを契機に私たちのビジネスが農村に急速に広がっていることがわかりました。

1年前にはタイミーはほとんど知られていませんでした。最近では「他の農家から聞いているよ」という反応がよくあります。口コミが先行するのは利用農家の満足の現れだと考えています。

――「農業」「林業」「水産業」のうちどのセグメントが増えているのですか。

石橋 農業の企業や個人農家のアカウントがいちばん多いですね。農作業とタイミーの相性が非常によいということが理由です。

私たちは「明日と明後日に人手を確保したい」という農家のニーズに応えられる。その圧倒的なスピード感が魅力です。例えば「週末に台風が来そうだ。その前に急いで収穫作業を終えたい」というときにスポッ

トワークは役立ちます。

一方で林業と水産業は、農業に比べ業界特有の作業や規制があつて、すぐに対応することが難しいところがあります。例えば林業は作業機械を使用する場合、建設業に近い法律上の規制も入ってきます。簡単にはスポットワーク人材に置き換えにくい。水産業についても「人手が足りないから、明日船に乗って魚を釣つて」とは頼みにくいですね。林業、水産業はこれからどのようなお手伝いができるのかを考えていきたいと思っています。

耕種系の仕事が圧倒的

――農業のなかではどの業種が最も利用されているのでしょうか。

石橋 ざぱり耕種系の仕事ですね。畑で収穫された青果物の選果や選別をする業務の割合が圧倒的に高い。ですから農作業のスポットワークの募集は4月から始まって、8～9月になるにつれて増えていくのが特徴です。

地域別には北海道が一番多いのですが、冬には畑作業がほとんどできないので夏場中心です。

――農業分野で特有の難しさはありますか。

石橋 「百姓」という言葉があるよ

Profile

いしばしたかの
大学卒業後、コンサル、ウェディング、飲食会社での現場・人事・事業経営者を経てタイミーに入社。入社以降、サービスやプロダクト設計に寄与するとともに、コーポレート、事業の責任者として従事したのちスポットワーク研究所所長となる。新しい働き方であるスポットワーク（雇用型ギグワーク）の啓蒙や、より安心安全に働けるスポットワークの環境整備を担う。

Data

株式会社タイミー
2017年法人設立。「働きたい時間」と「働いてほしい時間」をマッチングするスキマバイトサービス「タイミー」を運営。働き手は働きたい仕事を選ぶだけでなく、勤務後すぐにお金を受け取れる仕組み。事業者は来てほしい時間や求めるスキルを設定するだけで、条件にあった働き手と自動的にマッチングする。24年7月 東京証券取引所グロス市場に上場。

うに、農業には100の仕事があるといわれています。収穫や選果の仕事は、今日から来た人でもある程度こなせますが、もつと複雑な仕事もあります。例えば養鶏や牛などの畜産は、生きものにかかわる仕事なので、すぐに仕事に携わることは難しい。動画を利用した事前の研修とか、作業のマニュアル化を進めてはいますが、まだ十分にノウハウが蓄積していません。

ただ、そうした畜産分野で働いてほしいというニーズもあるので、その場合は初めて働く人ではなく、一定程度経験を積んだ人に働いてもらえるような工夫をします。

農家のITリテラシーを上げていくことも大切です。サービスを利用するにはスマホなどでタイミーのシステムを操作する必要がありますが、どうも心理的なハードルが高いようです。それも実際に使ってみれば問題なく利用できることが多くあります。これに関しては自治体やJAなどに力添えしてもらえたらと思います。

——タイミーで働く側は、農林水産業の仕事をどう評価しているのでしょうか。

石橋 いろいろな人が登録しているので「たまたまこの時間が空いてい

るので農業をしてみた」という人もいます。「もともと農業で働くことに関心があったので、ちょうどタイミーで働けてよかった」と肯定的に受け止める人もたくさんいます。

農家でない人は「農作業にかかわるのはけっこうハードルが高い」と感じています。受け入れ農家の側にも自分の田んぼや畑に見知らぬ人を入れたくないという気持ちがありますよね。タイミーを通じてそうしたギャップを埋めることができたのかなと考えています。

——気軽に働ける一方、農作業事故が全国で問題です。どのような対策をしていますか。

石橋 働く人たちの安心・安全の確保は最優先事項です。労災になり得るポイントなどの動画を制作して事前に見てもらったり、厚生労働省が進めている労災防止のための「SAFEコンソーシアム」に参加したりしています。

農業についても基本は他業種と同じで、業務内容をきちんと把握して何に注意しなければならないのかの洗い出しを事前に徹底することです。また、現場で安全面の違和感をちょっとでも察知したら、スポットワーカー側が通報できるような工夫も凝らしています。

農業界には労災について特有の制度があります。個人農家の場合、従業員が4人以下なら労災（保険）加入義務がありません。私たちは労災が適用される5人以上の農家や農業法人、JAなどの農業団体を中心にタイミー導入のアプローチをするようにしています。

地方自治体との協力進める

——地方自治体との連携を進めていきますね。

石橋 地方自治体の側から声をかけてもらうことが多いです。直面している人手不足を解消するため、地域の眠っている労働力を掘り起こしたいというものです。

実はもう一つ、長い目で見て人口流出を防ぎたいという狙いもあります。若い人たちの間では「地域には仕事がない」と思い込んで、東京などの都会に出ていってしまう人もいます。でも、実際には多くの地域が人手不足に悩んでいる現実があります。

多くの若い人たちが地元の仕事を知らない、接点もないなかで、タイミーなら短時間だけ地元企業で働けます。お試して働いてみたら自分には合っている仕事だった、地元で働けば親も喜ぶみたいなことで、結果

的に人口流出を防ぐことが期待できるわけです。

——都会などから人を呼び込む「タイミートラベル」は面白そうなサービスですね。

石橋 都会の人たちがお試して1週間程度、地方での仕事や生活体験を通じ、滞在費を賄いながら第二の故郷を見つけることができるということです。旅館など観光業を含めたさまざまな業種が対象ですが、ここでも農業は人気で、重要な役割を果たせると思います。

もちろん事業としての側面もありますが、本当の狙いはタイミーとして社会課題の解決に取り組むことです。労働人口、特に地方の人口が減ることは日本の深刻な課題だと思っています。そこに当社が地方と都会のつながりを提供することで、解決の糸口を探っていきたい。

私はタイミーで「スポットワーク研究所」の所長を務めています。労働市場における新たな価値と私たちがめざす社会を考える当研究所の業務領域に農業が割り当てられているのは、農業関連の当社のサービスが単なるビジネスを超え、社会貢献に結び付けられる可能性があるからです。

（ジャーナリスト 山田 優）

